

授業概要

「保育内容（環境）Ⅰ」をさらに発展させ、より領域内容についての理解を深めることを目的とする。具体的には「環境を通した保育」の意義、「遊びを通した保育」の意義について学ぶ。その際、より実践を意識し、遊びを発展させるには具体的にどのように環境を構成すればいいのか等について指導する。

授業計画

第 1 回	領域の意味、および総合性という言葉について考える
第 2 回	指導計画におけるねらいと内容の意味
第 3 回	環境の持つ意味についての実践的理解
第 4 回	教材研究としてのモノと関わる遊びについて
第 5 回	園全体の環境 保育課程、長期指導計画としての環境
第 6 回	環境を構成する教材研究としての自然との関わり
第 7 回	指導案作成Ⅰ 自然との関わりから
第 8 回	指導案作成Ⅱ 環境構成の視点から
第 9 回	指導案作成Ⅲ 人的環境、物的環境の意味
第 10 回	模擬保育Ⅰ 指導案の具現化という視点から
第 11 回	模擬保育Ⅱ 自己評価という視点
第 12 回	模擬保育Ⅲ ねらいと内容の具現化という視点
第 13 回	遊びを構成する環境の位置づけ
第 14 回	実践事例からの学び
第 15 回	まとめ 環境に関する現代的諸問題
第 16 回	筆記試験による定期試験

到達目標

環境構成の視点を意識し、指導案を作成し、模擬保育を通して、環境の理解を意味し、保育実践につなげることができるようにする。

履修上の注意

定時に出席を取る。遅刻は30分以内までの者とする。電車の遅延などは、大きな事故などの例外を除いて原則認めない。「保育内容（環境）Ⅰ」と連動している。

予習・復習

予習としては、幼稚園教育要領、保育所保育指針の「環境」にあたる箇所をよく読んでおくこと。復習としては、保育の総合性を念頭に各領域との総合的に関連づけること。

評価方法

筆記試験の結果70%、授業態度30%とする。欠席が3分の1を超える学生は受験資格がないので留意すること。

テキスト

- ・教科書名：『コンパクト保育内容 環境』
- ・著者名：高橋 貴志・目良 秋子
- ・出版社名：建帛社